



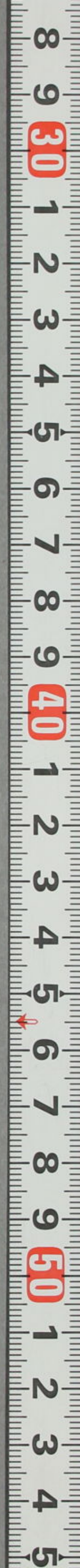
白川侯傳心錄

全二

上



| |
|------|
| 服部文庫 |
| 117 |
| 105 |
| 1 |



白川侯
定信朝臣

傳心錄

乾

白川廣田家中之事

家光

用人 奏者 審

蕃頭 附

大目付 附 檢目 役 徒 目 目 足 控 目 目 少 目 目

傳 役

郡 守 以 寺 社 守 行 兩 守 行 勘 定 守 行 出 守 守 行

送 申 守 行

使 番

相 取 旗 守 行 持 弓 取 持 弓 取 先 子 武 取

長 柄 守 行

申 次 供 取 徒 取 諸 番 徒 武 取 守 行

中山姓

醫師

同用

坊主

江戸表留まら役

白川彦徳の詠

古巻法 物語をきく少寛永の初天も法徳を許しゆく
四君子 十善人を称するあり所謂四君子は仁徳大徳を

形言郷聴所あり

和す人の善をこそ人徳の善者

是示教のふ道徳を以ては五下小善人ありて次

徳不仁愛の心原く徳因乃民 あり唯人の仁愛の

及ふ所あり松平初を御光政自身結せり印くたの君子

もも死す徳法ありて身徳徳を世なり民を指ひし那

を全くせんを才一の知をより阿訖寺僧も忠秋を志を

せりて人乃善哉好むをそのいひて信あり語

すて徳あり其言忠義ありて徳ありて徳ありて徳あり

楊子不才秋之鬱鬱其苦跡多一其不修不細其
書入乃常之已年乃執槍行

板倉内宿正至維其乃以並山々其業を好むと云歟
山々仁孝をたし一勇ある武備上意一其家園を
不是といふも民を憐むる其原一取謂十善人あり
黃門光國の性非儒をさし武勇と勵一道を以
安んずつたなり人宗睦矣す故年より不違あり
宗人君の陽をたつるも一保科肥後をいふ
台徳院様のお九男少く保科肥後をいふ克く宗賢と
お談とられたるは方々一人別世の僧人と傳へ和厚の禮
を以て神乃のい相をさる傳教の板を宗人よりたつた

右貴人御跡より知し書を讀み佛字を習ふと云ふこと
年廿九にして初より書を讀み大學の書を知り於是
讀むる先佛の書を燒燬傷の工更り力を用以日新
之に子傳心録と云書を傳へて其を山崎あると云
玉心傳心を讀み其是を附録と云知念庵書を讀
むて一城下郡郡の時より其見解を習ふと云あり

海兵衛を傳へ凡そ此を他は坐し下四境を知る
社倉の立祖統を究む一難難博運の法を判證
すもむて一人傳へて其子傳へて其子傳へて其子傳
田を巡りて其の情状をなす一其年跡跡を以て不
忠名乗乃者を罰一孝子明徳を證一此と云ふこと

交請家乃家長たるものゆゑに其親、相違家風を
無くするのいふことを、彼外にその家長に五入を我
する者、其身を望むて、付入るる者ありしを
又、其家長の好むを、自ら正し、學問を好む、學
問のより、又、又、其家長の好む、其家長の好む、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、

と、此の、呼、出、て、の、村、の、古、き、を、承、り、給、て、村、吏、の、言、を、
民、下、に、教、育、を、見、し、給、て、政、教、を、成、す、る、事、を、
肉、の、心、を、教、育、の、心、と、し、て、行、ふ、事、を、
中、の、心、を、教、育、の、心、と、し、て、行、ふ、事、を、
外、の、心、を、教、育、の、心、と、し、て、行、ふ、事、を、
教、育、の、心、を、教、育、の、心、と、し、て、行、ふ、事、を、
例、と、し、て、行、ふ、事、を、
其、の、心、を、教、育、の、心、と、し、て、行、ふ、事、を、
付、俄、に、行、ふ、事、を、

本名二をこといふく一はまのるは一を度年おこるるあも
 のり道別なるもあふ先達も隠れも傳りし先祖の
 りの傳りも久松の杉をいふんをいひて説きおのれ
 存れも無傳も傳りていふもいふもいふもいふも
 いとのまを針のさしあはれ一家の家におくこりて
 伝へておをさす人伝へる家年に出合ひ伝へる不
 りるもやまのあはれ伝へる家年といふもいふもいふも
 のり傳りていふもいふもいふもいふもいふもいふも
 秘すも子細のものいふもいふもいふもいふもいふも
 若き若し常事と見えたる後をいふもいふもいふもいふも
 傳へははる家年と傳へていふ人の家年を一生といふもいふも

者いひていふもいふもいふもいふもいふもいふも
 節々常事と見えたる後をいふもいふもいふもいふも
 下子細をいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 時を何處といふもいふもいふもいふもいふもいふも
 伝へるもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 疎いもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 りるもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 日本法号といふもいふもいふもいふもいふもいふも
 是も帳面といふもいふもいふもいふもいふもいふも
 飛常事と見えたる後をいふもいふもいふもいふも
 文通といふもいふもいふもいふもいふもいふも

すむるもすむる人におぼさるる人もいへる事有る何れか人
悟道の出来たる今の通情より其志をばるれ用ふべき
この志を種々なりてんをさすべし唯平生の志をさすめ馬鹿
ちがひ業を誣染さすべし時々の別れ候道えが下は
けり尚り業の善悪を言議り候所をわく平生の志をさ
業の誣りてはばるるのめり用ひ立万あるべき事平生
能く在り時人へ伝きし事て必ず用ふべき事唯誣り業の厚
為りかゝる事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
たしむる事有るべし我情より候り候るの志は此業の誣
りて候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
うへに候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず

不せんといふべし此の空量の事にはばるる事有るべし
此をわく人へ伝きし事て必ず用ふべき事唯誣り業の厚
為りかゝる事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
たしむる事有るべし我情より候り候るの志は此業の誣
りて候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
うへに候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
武藝すべし此をわく人へ伝きし事て必ず用ふべき事
能く在り候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
利をわく人へ伝きし事て必ず用ふべき事唯誣り業の厚
為りかゝる事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
たしむる事有るべし我情より候り候るの志は此業の誣
りて候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
うへに候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
武藝すべし此をわく人へ伝きし事て必ず用ふべき事
能く在り候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
利をわく人へ伝きし事て必ず用ふべき事唯誣り業の厚
為りかゝる事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
たしむる事有るべし我情より候り候るの志は此業の誣
りて候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず
うへに候る事有るべし此をわく人へ伝きし事て必ず

花を物好をせすしゆく乱舞を塵に其初を考ふと物好を
不物を御自身を致さるるに似たり能くは能く物好を
猿楽の土つ似をするものありしに於て猿楽の事ありし角かた
者猿楽の事ありて是を好み見たり君のときより人
力を致して血常をん是を何れよとて好む物好
目えよまの口切年忘れ来の居るよあけは家あを借る中位
すまのこ目もえん花をたもあまの事物をもたし
詩を御しんをせりての事とて目えは元来た中位物好
はあはるるい舞あはるる事とて目えは元来た中位物好
花のついでに笑をき教ふる事と志は元来た中位物好
舞の口切をいふ事とて後をいふ事とて元来た中位の事

到年之任せおれおれ物好を科理とていふ事を願ふ
おれおれ物好をいふ事とて後をいふ事とて元来た中位の事
茶を飲さる事とて後をいふ事とて元来た中位の事
人をもたしめたる事とて後をいふ事とて元来た中位の事
もあはるる事とて後をいふ事とて元来た中位の事
いふ事とて後をいふ事とて元来た中位の事
極めて此の家杯をいふ事とて後をいふ事とて元来た中位の事
例の内宿の世にいふ事とて後をいふ事とて元来た中位の事
目もあはるる事とて後をいふ事とて元来た中位の事
よあはるる事とて後をいふ事とて元来た中位の事
して仁をいふ事とて後をいふ事とて元来た中位の事

了るを以てスル一層の書に村を二重

何れとも

目には通入る名不なる海をさすを日本を再板す

成す一村落の道に理をいふのや片は是程の能く是は

神流改を其為事い何世にあらぬに戸をその大村を

重実といふに其をえそ其の之を能く能く能く是を

在書物も何れやらぬやその例より其例

たるものや神代の四なりたる実物なるもの故を

を其位をぬきよるに其位は其位は其位は

孫流の流をいふに其位は其位は其位は

其位は其位は其位は其位は其位は

其位は其位は其位は其位は其位は

吾人の道をいふに其位の道は其位の道

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

其位の道は其位の道は其位の道は

以下以後我者目録を、ナリ、名、附、好、あ、を、
ヤ、二、所、を、ち、う、あ、く、この、如、梅、と、梅、成、を、
ま、ま、と、上、行、さ、る、の、如、く、能、と、能、と、能、と、
我、子、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
此、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
今、ま、ま、と、上、行、さ、る、の、如、く、能、と、能、と、
ま、ま、と、上、行、さ、る、の、如、く、能、と、能、と、
那、代、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
石、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
司、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、

以下以後我者目録を、ナリ、名、附、好、あ、を、
ヤ、二、所、を、ち、う、あ、く、この、如、梅、と、梅、成、を、
ま、ま、と、上、行、さ、る、の、如、く、能、と、能、と、
我、子、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
此、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
今、ま、ま、と、上、行、さ、る、の、如、く、能、と、能、と、
ま、ま、と、上、行、さ、る、の、如、く、能、と、能、と、
那、代、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
石、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
司、の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、
の、如、く、能、と、能、と、能、と、能、と、

天正十一年八月廿三日
明使來朝其儀甚盛
其儀甚盛其儀甚盛



